

教育支援機器等展示室「iライブラリー」 と支援機器等教材普及促進事業の紹介

土井幸輝・西村崇宏・新谷洋介・金森克浩・新平鎮博
(教育情報部)

要旨：教育情報部は、平成23年4月の組織改編により新たに発足し、今日の特別支援教育に係る教育情報の収集・整理・発信の重要性に鑑み、それらを総合的に行うというミッションを担っている。教育情報部には二つの担当があるが、その一つである総合特別支援教育情報担当は、研究所ウェブサイトの運営を含め、研究所が行う情報収集・整理・発信及び特別支援教育に係る広報事業等に関する基本方針や事業計画の検討、広報事業等の進捗状況の把握と改善に関する業務を推進している。本稿では、総合特別支援教育情報担当の業務の一環で管理運営している教育支援機器等の展示室「iライブラリー」と、平成26年度から新たな業務として取り組んでいる支援機器等教材普及促進事業について簡潔に紹介する。

見出し語：教育情報部、総合特別支援教育情報担当、iライブラリー、支援機器等教材普及促進事業

I. はじめに

国立特別支援教育総合研究所の教育情報部は、平成23年4月の組織改編により新たに発足し、今日の特別支援教育に係る教育情報の収集・整理・発信の重要性に鑑み、それらを総合的に行うというミッションを担っている。教育情報部には、総合特別支援教育情報担当と発達障害教育情報担当の二つの担当がある。これら二つの担当の一つである総合特別支援教育情報担当は、研究所ウェブサイトの運営を含め、本研究所が行う情報収集・整理・発信及び特別支援教育に係る広報事業等に関する基本方針や事業計画の検討、広報事業等の進捗状況の把握と改善に関する業務を推進している。本稿では、総合特別支援教育情報担当の業務の一環として管理運営している教育支援機器等の展示室(iライブラリー(図1))と平成26年度から新たな業務として取り組んでいる支援機器等教材普及促進事業の概要について簡潔に紹介する。

徒のための教材・教具開発及び教育支援機器等に関する情報や資料の収集・普及などの業務を推進しており、その業務の一環として、障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた支援を実現する様々な教育支援機器やソフトウェアの展示を行う教育支援機器等展示室(iライブラリー)(図1)を管理・運営している。iライブラリーでは、市販されている教育支援機器や教材・教具だけでなく、本研究所が試作及び開発に携わった教育支援機器や教材・教具も展示しており、各都道府県や市町村から派遣された現場の教員の方々に向けた研修や教育関係者による研究所見学の際にも利用できるように



図1 iライブラリー展示室内のイラスト

II. 教育支援機器等展示室 「iライブラリー」

1. iライブラリーとは

総合特別支援教育情報担当は、障害のある児童生

なっている。i ライブラリーは、本研究所の研究管理棟1階正面玄関を入ってすぐ右横に位置する。展示室内は障害種別の小さなブースに分かれており、室内の壁を木目調にすることで一般的な学校の教室の様子を再現できるようにしている。また、障害種ごとに設置されたブースの壁を色分けすることで、どの障害種に応じた支援機器であるかを一目で識別できるような構成になっている。展示されている教育支援機器や教材・教具等は、ウェブサイトでも閲覧できるようになっている。次節では、そのウェブサイトについて簡潔に紹介する。

2. i ライブラリーのウェブサイト

i ライブラリーのウェブサイトは、本研究所が平成19年度から20年度に実施した「障害のある子どものための情報関連支援機器等の活用を促進するための教員用映像マニュアル作成に関する研究」の研究

究成果の普及を目的として作成し、一般に公開している。図2にi ライブラリーのウェブサイトのトップページを示す。ここでは、以下に示すような各コンテンツを掲載している。

1) 最新ニュース

本サイトでは、教育情報部が中心となって企画する教育支援機器関連のイベント等の情報を掲載している(図3)。具体的な例としては、後述する支援機器等教材普及促進事業の一環で行っている支援機器等教材に関する研究協議会や展示会等が挙げられる。

2) 本研究所が試作及び開発に携わった教育支援機器や教材・教具

本サイトでは、本研究所が試作及び開発に携わった教育支援機器や教材・教具についても、直近5ヶ年度分を紹介している。例えば、「ネットで学ぶ発音教室(図4)」,「軽量高強度白杖(図5)」,「アクセ



図2 i ライブラリーのウェブサイトのトップページ



図4 ネットで学ぶ発音教室



図3 トップページに掲載している最新ニュース



図5 軽量高強度白杖

シンプルデザインパンフレット(図6)」等が挙げられる。また、「震災後の子どもたちを支える教師のためのハンドブック～発達障害のある子どもへの対応を中心に～」のようなハンドブックも掲載している(図7)。

3) i ライブラリーで管理している教育支援機器一覧

i ライブラリーのウェブサイトでは、教育支援機器等を検索することができる。教育支援機器等の検

索は、「動くこと」、「見ること」、「聴くこと」、「話すこと」、「憶えたり、理解すること」、「いくつもの障害」、「その他」の 카테고리を選択することで検索することができる。また、障害種から調べることも可能である。さらに、コンピュータ、スイッチ、VOCA、シンボル、絵カード、文字盤等の 카테고리からも調べることができ、自由にキーワードを入力することで検索することも可能である。図8に教育支援機



図6 アクセシブルデザインパンフレット



図7 「震災後の子ども達を支える教師のためのハンドブック」

支援機器名	トーキングエイド for iPad	
タイトル	VOCA	
カテゴリー	話すこと	
基本的な使い方	iPadを用いたコミュニケーションを支援目的としたアプリ。テキスト入力版、シンボル入力版、タイマーと3つのアプリケーションが提供されている。	
主な対象障害	複数障害対応	
カテゴリー2	VOCA	

図8 掲載している教育支援機器の例1 (トーキングエイド (タブレット版))


支援機器名	点字プリンタ・プロッタ	
タイトル	点字プリンター	
カテゴリー	憶えたり、理解すること	
基本的な使い方	点字と点図が印刷できる装置。印字数は、32字22行と40字24行。太線・中線・細線と3種類の線を印字できる。	
主な対象障害	視覚障害	
カテゴリー2	その他	

図9 掲載している教育支援機器の例2 (点字プリンタ)


支援機器名	フレキタッチ電極(クリップ式)	
タイトル	接触スイッチ(タッチセンサー)	
カテゴリー	動くこと	
基本的な使い方	先端に触れるだけで作動するスイッチ	
主な対象障害	肢体不自由	
カテゴリー2	スイッチ	

図10 掲載している教育支援機器の例3 (接触スイッチ)

器等の具体例として「トーキングエイド(タブレット版)」を示す。詳細情報では、購入を検討する際に必要な情報も掲載している。その他、点字プリンタ(図9)や接触スイッチ(図10)等もあり、一部ではあるが教育支援機器の使用法の動画や実践事例も掲載している。

3. 小括

ここでは、教育支援機器等展示室(iライブラリー)やそのウェブサイトについて簡潔に紹介した。教育現場において、教育支援機器・教材等を効果的に活用できるように今後もウェブサイトの充実を図っていく予定である。また、展示品も計画的に充実させていき、本研究所が行う特別支援教育の専門研修に参加する研修員や、本研究所に見学に来られる方に直接手に取っていただきながら、教育支援機器・教材の特徴や活用法を丁寧に紹介していく計画である。



図11 支援機器等教材普及促進事業の概略図

Ⅲ. 支援機器等教材普及促進事業

1. 支援機器等教材普及促進事業とは

本研究所では、教育現場における特別支援教育教材・支援機器の更なる利用促進を図ることを目的として、平成26年度から文部科学省の「支援機器等教材普及促進事業(図11)」を受けて新規事業を立ち上げた。ここでは、事業の概要を紹介する。

2. 特別支援教育教材ポータルサイト

本事業では、当該領域の教育関係者や保護者等、

支援機器等教材に関心のある方々に対して情報提供を行っていくために、児童生徒の障害の状態や特性等に応じた支援機器等教材活用に関する様々な取組に関する情報を収集し、これら特別支援教育教材の情報を提供するポータルサイトの構築を行う。教育関係者や保護者の方々に本ポータルサイトを利用していただくことで、支援機器等教材やそれらの活用法に対する理解が深まり、支援機器等教材の利用促進を促す。具体的に、本ポータルサイトでは、支援機器等教材のデータベースに加えて、これらを活用した実践事例を検索する機能を備える予定である。

平成 26 年度中には、本研究所の教育支援機器等展示室（i ライブラリー）や発達障害教育情報センターの各ウェブサイトに掲載されている支援機器等教材に関する情報を検索できるようにする。また、本研究所の研究活動を通じて収集した支援機器等教材の実践事例を検索できる機能も併せて構築していく予定である。なお、図 12 に示したのは、本ポータルサイトの構築に向けて定例で行っている教育情報部のミーティングの様子である。

3. 支援機器等教材に関する研修・展示会

各都道府県の指導者層を対象とした障害のある児童生徒のための支援機器等教材活用の実践的な研修を企画運営する業務を推進している。本年度は、8月18日、19日の2日間にわたって、本研究所を会場とした研究協議会を開催した（参加者 55 名）。この研究協議会では、特別支援教育及び支援機器等教材に関して、文部科学省特別支援教育課特別支援教育調査官の丹羽登氏から行政説明をしていただいた。また、特別講演として、東京大学先端科学技術研究センター教授の中邑賢龍氏には、支援機器等教材を活用した特別支援教育の在り方に関する講演をいただいた。そして、兵庫教育大学講師の小川修史氏には、支援機器等教材を実践的に活用するためのワークショップを行っていただいた（図 13）。さらに、参加者によるポスター発表も開催した。図 14 に示したのは、「本研究協議会は、全体として有意義なものであると思いますか。」という質問項目に対する参加者のアンケート結果である。96.4%の参加者が、「有意義であった」もしくは「どちらかといえば有意義

であった」と回答しており、大多数の参加者から好評をいただくことができた。また、「来年度実施するとすればどのような形態がいいですか。（複数回答可）」という質問に対する参加者のアンケート結果（図 15）からは、次年度も「講演会」「ワークショップ」「ポスター発表」等から成る同様な研修の企画を期待していることが明らかになった。このようなアンケートの結果も踏まえて、次年度も同様な研究協議会を企画する予定である。

また、教育現場の教員に実際に活用されている支援機器等教材やその活用事例を紹介するための展示会の企画運営も業務の一つである。今年度を実施した展示会は、11月開催の研究所公開（図16）、12月開催の特別支援教育教材・支援機器等展示会（国立京都国際会館にて開催）（図17、図18）、1月開催の研究所セミナーの計3回である。より多くの教育関係



図13 研究協議会の様子（ワークショップ）



図12 特別支援教育教材ポータルサイトに関する教育情報部での定例ミーティングの様子

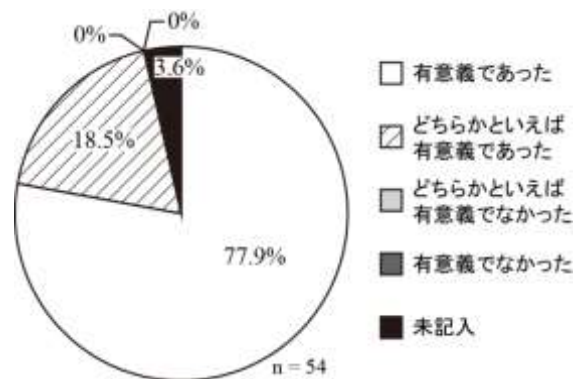


図14 研究協議会の参加者のアンケート結果（「本研究協議会は、全体として有意義なものであると思いますか。」）

事業報告

者や保護者の方々に対して支援機器等教材活用に関する情報を普及させるため、次年度も引き続き展示会を開催する予定である。

4. 小括

ここでは、支援機器等教材普及促進事業について簡潔に紹介した。現在構築中の特別支援教育教材ポータルサイトの公開については、適宜、本研究所のウェブサイト等でも告知していく予定である。また、本年度好評であった支援機器等教材に関する研修は、来年度も実施する予定である。展示会については、研究所公開等を利用して開催する計画を立てており、多数の参加を期待したい。

IV. おわりに

本稿では、総合特別支援教育情報担当の業務の一環として管理運営している教育支援機器等の展示室(iライブラリー(図1))と平成26年度から新たな業務として取り組んでいる支援機器等教材普及促進事業の概要について簡潔に紹介した。本稿を通じて、読者の皆様にiライブラリーや本事業についてご理解いただければ幸いである。また、是非、iライブラリーに見学に来ていただくとともに、本事業で開催する各種イベントにも積極的にご参加いただければ幸いである。

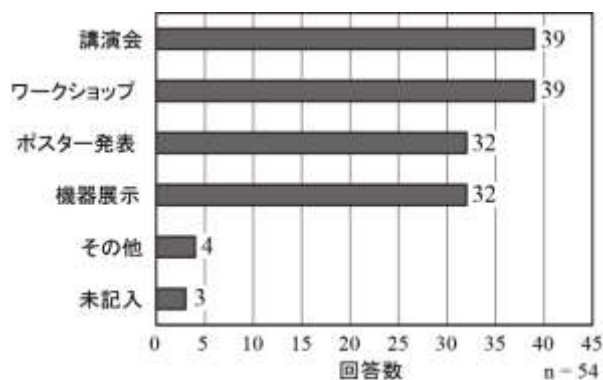


図15 研究協議会の参加者のアンケート結果(「来年度実施するとすればどのような形態がいいですか。(複数回答可)」)



図16 研究所公開の様子



図17 京都展示会の様子(開会式)

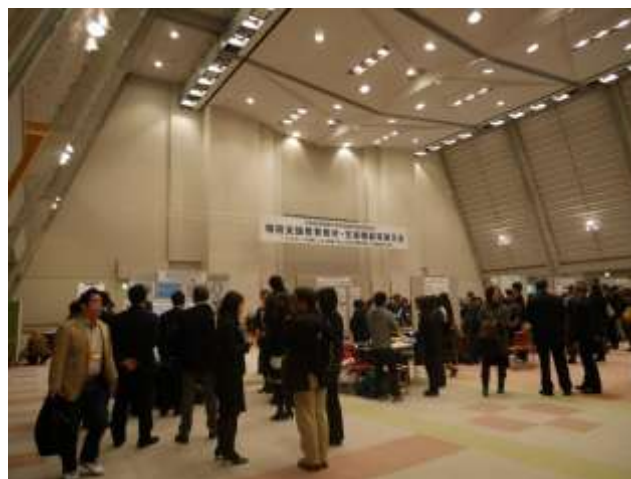


図18 京都展示会の様子(会場内)